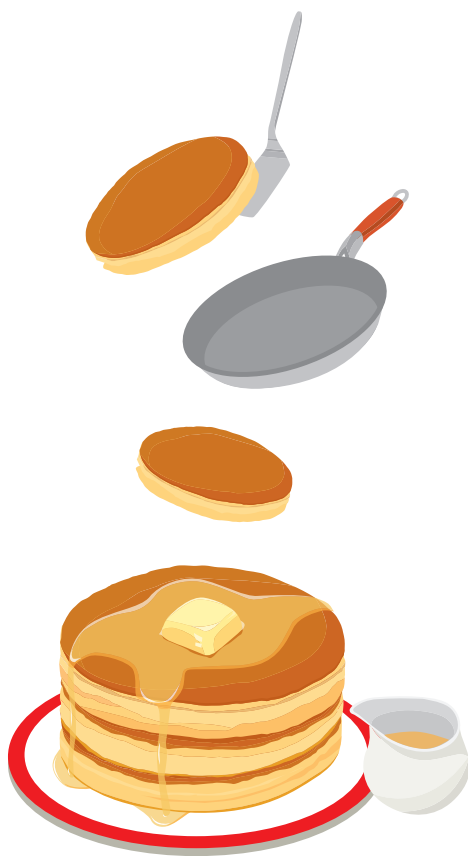




日本をおいしくする

SHOWA

株主のみなさまへ

第**110**期 報告書

平成 22 年 4 月 1 日 ▶ 平成 23 年 3 月 31 日

株主の皆様へ



代表取締役社長

岡田 茂

新社長略歴

昭和28年2月27日生まれ(58歳)

昭和50年4月入社

ぶどう糖事業本部長、大阪支店長などを経て、平成20年6月に常務取締役、平成22年6月に専務取締役、平成23年6月から代表取締役社長に就任。

株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

東日本大震災の犠牲となった方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

第110期(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の事業概況をご報告申し上げます。

当期は、長引く景気低迷や円高など厳しい環境にありながらも、世界経済の回復や景気対策の効果により緩やかな回復傾向にありました。しかしながら、本年3月11日に発生した東日本大震災およびその後の原発事故や電力不足により、経済活動は甚大な影響を受けました。

食品業界におきましても、消費低迷による競争激化の一方で、原料穀物相場は、小麦、大豆、菜種、トウモロコシ全ての価格が大幅に上昇する厳しい環境にありました。

このような状況の中、当社グループは、2009年(平成21年)よりスタートした「中期経営計画09-11」の5つの基本戦略「①財務体質の強化」「②成長分野への注力」「③基盤事業の再成長」「④グループシナジーの追求」「⑤CSR経営の推進」の下、具体的な施策の推進に努めてまいりました。

これらの結果、小麦粉製品や油脂製品などの主力製品を中心に販売量を伸ばし、売上高は増収となりましたが、原料穀物価格上昇に対する価格改定が遅れたことや東日本大震災の影響により営業利益および経常利益は減益となりました。

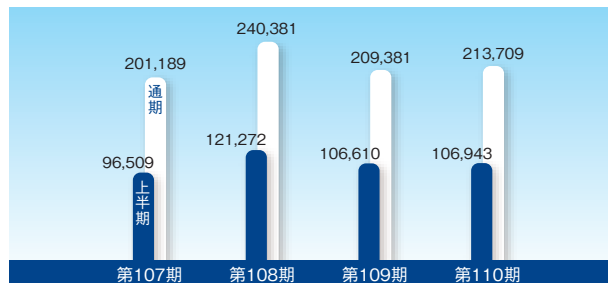
東日本大震災により、当社グループにおきましても、生産拠点等が被災し、生産設備や製品在庫などに損失が発生しました。震災後も、計画停電や頻発する余震などによる様々な課題が発生しましたが、全社一丸となって早期復旧に努めた結果、3月末までには通常の生産活動および営業活動を行えるまでに復旧しました。また、震災以前よりリスクマネジメント委員会を設置し、鹿島工場の岸壁耐震補強を始めとした様々な対策を講じてきたことは、被害を小規模に抑えることにつながったと考えております。今後も、今回の経験と教訓を活かし、リスクマネジメント強化を図ることで、将来に向けての更なる発展に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

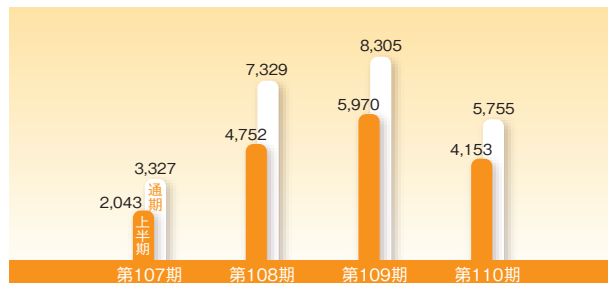
平成23年6月

連結業績の推移

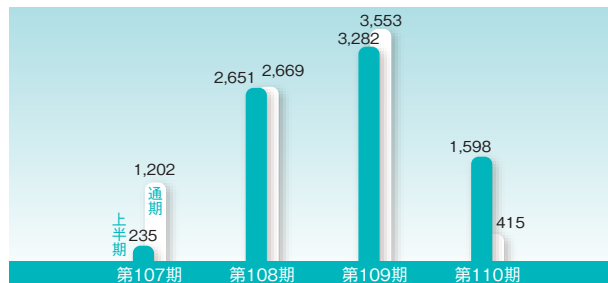
● 売上高（百万円）



● 経常利益（百万円）



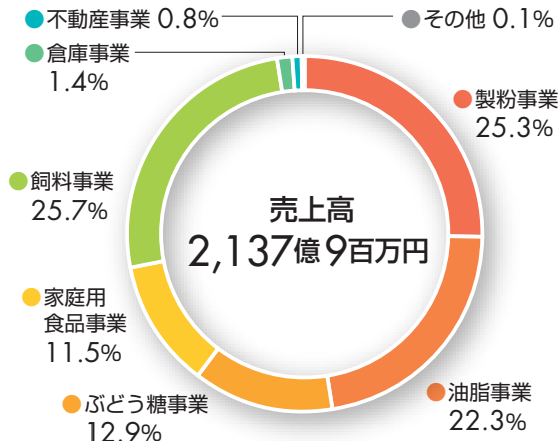
● 当期純利益（百万円）



<財務データに関するご注意>

第108期連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。第107期の数値に関しましては参考数値として掲載しております。

セグメント情報



製粉事業 540億37百万円

業務用小麦粉につきましては、輸入小麦の政府売渡価格の変更を受け、通期の製品価格は前年同期と比較して下落しました。一方で、平成22年7月に菓子用小麦粉「Cプラン」「ノワールC」、本年2月にパン用粉「B」などの新製品を発売するとともに、提案型の営業活動を展開したことなどにより、小麦粉製品全般の販売数量は増加しました。

油脂事業 476億99百万円

業務用食用油、業務用天ぷら粉、業務用パスタにつきましては、昭和天ぷら粉発売50周年にあわせて平成22年5月に「天ぷら維新」を発売するなど、顧客ニーズを捉えた営業活動により販売数量は前年同期と比較して増加しました。

ぶどう糖事業 275億45百万円

糖化製品につきましては、猛暑により夏場の販売数量は好調でしたが、糖質を抑えた低カロリー飲料への需要シフトや東日本大震災の影響もあり、販売数量は前年同期を下回りました。コーンスターチにつきましては、大手顧客を中心とした積極的な販促活動により、販売数量は前年同期と比較して増加しました。

家庭用食品事業 245億20百万円

家庭用プレミックス製品につきましては、平成22年7月より「昭和天ぷら粉 発売50周年記念プレゼントキャンペーン」、11月より「ホットケーキミックスは、SHOWA! キャンペーン」を実施し、販促活動に努めた結果、販売数量は前年同期と比較して増加しました。家庭用食用油につきましては、景気低迷による需要減退や猛暑の影響により、前年同期と比較して販売数量は減少しました。

飼料事業 548億8百万円

配合飼料につきましては、九州地区での口蹄疫や猛暑の影響により販売数量は前年同期と比較し減少しました。鶏卵につきましては、猛暑の影響により鶏卵生産量が減少したことにより、鶏卵相場が高騰し、前年同期と比較して販売価格は上昇しました。

倉庫事業 30億88百万円

倉庫事業につきましては、商社や主要ユーザーとの取り組みを強化し、荷役量の増加に努めましたが、小麦の政府売渡制度変更に伴い荷役機会が減少したことや、東日本大震災によって一時的に港湾機能が麻痺したことなどにより、前年同期と比較して荷役量は減少しました。

不動産事業 17億14百万円

不動産事業につきましては、オフィス用賃貸ビルおよび商業施設用ビルにおいて、一部テナントが退去したことにより、前年同期と比較して賃料収入は減少しました。

その他 2億94百万円

その他として、保険代理業、自動車等リース業、運輸事業等があります。

<セグメント情報に関するご注意>

当連結会計年度より、事業区分を「製粉事業」「油脂事業」「ぶどう糖事業」「家庭用食品事業」「飼料事業」「倉庫事業」「不動産事業」「その他」に変更しております。そのため、前連結会計年度の数値を変更後の事業区分に組み替えて比較を行っております。



新製品の
ご紹介

「作る楽しさ、食べる楽しさ」を
お届けします。



新製品

もちもち ホットケーキミックス

- いつもの作り方で、「もちもち」新食感のホットケーキが作れます。
- ふんわり、しっとり、ほんのり香るバニラ風味でおいしさを引き立てます。
- ちょっと甘めで、そのままでもおいしく、おやつや朝食にもぴったりです。



新製品

レンジでチンする から揚げ粉

- 鶏肉にまぶして、電子レンジでチンするだけ。
- 油を一切使用しないので、後片付けが楽チンです。
- 2個から調理可能なので、忙しい朝のお弁当作りにもぴったりです。

●商品に関するお問い合わせ先●
お客様相談センター ☎0120-325-706
受付時間：平日午前9時から午後5時まで

クローズアップ!

家庭用食品部門

SHOWAの総合力が結集された
家庭用食品事業。
消費者目線に立った製品開発を
通じて、さらなる成長を目指します。

食品部長 山口 龍也



PROFILE

山口 龍也 (やまぐち たつや)

昭和59年4月入社。

札幌支店長などを経て、平成21年6月に食品部長に就任。

食品分野の多角化企業として幅広い展開を行っている当グループのビジネス。この「クローズアップ!」シリーズでは、部門ごとの事業活動にスポットをあて、当該部門長へのインタビューを通じて、SHOWAの成長戦略の中でリアルな動きを伝えます。最終回となる第4回は家庭用食品部門をクローズアップします。

**事業の柱は、粉と油の両輪。
歴史を誇る無糖プレミックスに、
市場シェアの大躍進で急成長する
ホットケーキミックスなどの
加糖プレミックスを強化。**

**まず、SHOWAにおける家庭用食品事業の
位置づけを教えてください。**

当 社は、小麦、菜種、大豆、トウモロコシといった穀物を原料に、各種製品を自社工場で製造・加工しています。小麦を素材にした製品には、薄力粉などの小麦粉のほか、当社の看板製品である天ぷら粉やから揚げ粉といった無糖プレミックス、ホットケーキミックスに代表される加糖プレミックス、さらにはパスタなどの乾麺があります。また、菜種、大豆、トウモロコシからは「オレインリッチ」やキャノーラ油などの食用油のほか、炊飯油の栄養機能食品「お釜にボン」、特定保健用食品「オリゴタイム」なども製造しています。こうした製品を家庭用サイズにして販売しているのが、家庭用食品事業です。



**その家庭用食品を取り巻く
事業環境はどうなっていますか。**

長 引く景気低迷を背景に、依然、節約志向、肉食・手作り
回帰のトレンドが続いています。一方で、仕事を持つ女性
の増加を背景に、料理時間の短縮や簡便化も進んでいます。

そうした中、当然のことながら、消費者が一貫して厳しい目を注いでいるのが、食の安全・安心です。健康に対する意識も高まる中、天然のものや履歴のしっかりした食品など、消費者の食へのこだわりは、ますます強くなっています。

その中で、特に力を入れている製品は何でしょうか。

まず、SHOWAを語る上で欠かせない天ぶら粉です。1960年に世界で初めて家庭用天ぶら粉を発売して以来、消費者の生活スタイルや食文化が大きく変化する中で、半世紀にもわたる長い間、お客様に変わらずご愛顧頂いています。その歴史と共に当社ブランドの信頼性を築き上げた、看板製品です。

そして、天ぶら粉に続く第二の看板として成長している、ホットケーキミックスなどの加糖プレミックスです。これまで嗜好品だったホットケーキは、朝食メニューの一つへと組み込まれつつあり、ホットケーキが牽引する形で加糖プレミックス市場の規模が拡大してきています。マーケットの拡大を以前から予測していたため、当社でも5年ほど前から加糖プレミックス事業への注力を強化してきました。2005年に発売した「ケーキのようなホットケーキミックス」を筆頭に、当社の加糖プレミックス製品は、市場でも高い評価を獲得しています。

ではまず、50周年を迎えた天ぶら粉について、SHOWAの取り組みをお聞かせください。

天ぶらは日本の伝統的な食事ですが、その調理にはある種の技術が必要です。しかし、「昭和天ぶら粉」の登場で、職人的な技術を要することなく、ご家庭や中食、外食チェーン店等で、美味しく天ぶらを召し上がって頂けるようになりました。また、電子レンジでの再加熱やお弁当箱による密封でも、

衣にサクサク感が残るよう、技術陣のたゆまぬ努力で進化を遂げてまいりました。天ぶらは、野菜や魚など、四季折々の素材を楽しめる日本伝統の食文化です。当社は、製粉と食用油の両方を製造・加工している強みを活かし、それぞれの食材と相性の良い油の提案もしてまいりました。

昨年は、天ぶら粉という“素材”に近い製品で、半世紀にわたってご愛顧を頂けているという重みを広く再認識頂きたいという思いで、50周年記念キャンペーンを大々的に展開しました。お客様からはもちろんのこと、流通のお取引先などからも、「50年ってすごいね」とお声を頂き、改めて当社製品の安心・安全性や品質の高さ、そして裏切らない美味しさをご認識頂けたと思います。そしてその成果は、数字にも表れています。



次に、躍進中のホットケーキミックスについてお聞かせください。

ホットケーキミックスは競合他社の製品ラインアップも揃っており、コモディティ製品となっていました。当社が2005年にプレミアム製品として「ケーキのようなホットケーキミックス」を発売したところ、消費者の皆様から大変高いご評価を頂きました。

この「ケーキのようなホットケーキミックス」は、日本を代表するパティシエである高木康政シェフにもご協力頂き、「日本一美味しいホットケーキ」を目指して開発しました。高木シェフのブランド力ももちろん





ありますが、食べたときに本当に美味しいものでなければ、売上が伸び続けることはありません。誰もが作れる簡単さで、しかも期待を裏切らない美味しさであったことが、好調な売れ行きが持続している一番の理由だと考えています。

ホットケーキミックスは、容量別・機能別にラインアップを揃え、「いろいろ洋菓子が作れるホットケーキミックス」や新製品「もちもちホットケーキミックス」なども販売しております。ホットケーキミックスを中心として、当社の加糖プレミックス製品は、天ぷら粉とともに、SHOWAの主軸としてさらに成長させていきたいと思えます。

今年3月発売の新製品、 「もちもちホットケーキミックス」と 「レンジでチンするから揚げ粉」

「もちもちホットケーキミックス」について、
その開発の背景を教えてください。

当 社には既に、「まるめて焼くだけもちもちパンミックス」や「揚げたてもちもちドーナツミックス」などで、「もちも

ち」感についての実績があります。「もちもち」とした食感は、ホットケーキとしてはオーソドックスなタイプではないかもしれませんが、日本人はもともと「もちもち」とした食感が好きだと感じておりますし、また、パンやドーナツなどのスイーツでは、歯ごたえがあるものよりも人気があります。食感の違いを深く理解している当社技術を活かし、従来のホットケーキにはない新しい美味しさを提案することで、お客様の選択肢を拡げていきたいと考えています。

「レンジでチンするから揚げ粉」は油の要らない
画期的な製品として好調な売れ行きだそうですね。

先 ほど申し上げた料理の時短・簡便化という流れの中で、揚げ物については、少量の油でフライパンを使った調理法が多くのお客様のニーズに合い、競合他社も続々と揚げないタイプの製品を出しています。しかし当社では、敢えてその流れを追いかけませんでした。そこで生まれたのが「レンジでチンするから揚げ粉」です。鶏肉にまぶして電子レンジでチンするだけで、3分半で美味しいから揚げが作れ、後片付けも楽チンと、発売以来、大好評を頂いています。

多様化する消費者のライフスタイルやニーズにお応えした製品は必ず売れるとは思っていましたが、粉をまぶすだけの電子レンジ調理で、肉の生臭さを消し、さらにパリッと揚げたような衣の食感を生み出すというのは、技術陣にとってはハードルの高いチャレンジでした。電子レンジ調理でも美味しいから揚げが作れる当社独自の配合は、現在特許の出願を行っています。



各部門のシナジーが発揮された 家庭用食品事業には、 SHOWAの強みが凝縮。

家庭用食品において、SHOWAの強みは どういう点にあるのでしょうか。

まず、当社には、自社で穀物から製粉・食用油・ぶどう糖を製造・加工する技術があり、穀物の相性に関するノウハウが蓄積されています。また、業務用部門でユーザーのニーズに的確に応える技術力が磨かれる一方で、家庭用部門では消費動向を読むことで、消費者目線に立った製品開発に繋げることができます。家庭用食品には、こうした社内の各部門のシナジーを最も発揮できますから、そこにはおのずと当社の強みが凝縮されています。

消費者目線に立った製品開発で、販売後好評を博している製品は数多くあります。たとえば25年以上前に販売を開始した「お釜にポン」は、炊飯器に一粒入れるだけで玄米以上のビタミンEが摂取できる健康食品として、長い間で愛顧頂いています。また、から揚げは時間が経つと硬くなるという消費者の声に応え、果物からとったパピイン酵素を使って肉の繊維を切ることで冷めても美味しい「お肉をやわらかくするから揚げ粉」を発売し、こちらもご好評頂いています。パスタについても、2つの製造ラインを設け、異なる乾燥温度と時間で製造することで、1.8mm麺にはもちもち感を、また1.6mm以下の細い麺にはぱりぱり感を出すなど、お客様のこだわりにきめ細かく対応しています。



家庭用食品は直接消費者に届くものですが、 消費者の声をどのように活かしていますか。

当社には、直接お客様からご意見をお寄せ頂くお客様相談センターがありますが、それ以外にホームページでもご意見を頂ける仕組みになっています。また、当社が実施する消費者キャンペーンや食育教室では、ご参加頂いた消費者、保護者・お子さまの声に積極的に耳を傾けています。展示会なども直接ご意見を頂戴する重要な機会であると捉えており、「スーパーマーケットトレードショー 2011」にも出展いたしました。

当社はお客様の声を大変重視しております。お寄せ頂いた貴重なご意見は、毎週定期的に開催するミーティングにて社内全体で共有するとともに、ご意見を集約して製品の開発や改善、販促の施策へと繋げています。



最後に、家庭用食品事業の醍醐味を教えてください。

業務用食品は、ユーザーからご意見を頂いた上で製品開発を行います。家庭用食品は店頭で配荷し、その後ご購入頂いてからが勝負です。お買い求め頂き、召し上がって頂き、そしてご評価頂いた上で、再びお買い求め頂くという、このサイクルの実現が最も難しく、またやりがいを感じる部分です。私自身、市場調査のために頻繁に店頭へ足を運びますが、お客様同士の会話の中で当社製品に関する好意的なコメントを耳にしたときなどは、本当にうれしい気持ちになります。

株主の皆様にも当社製品をご賞味頂き、引き続き当社のさらなる成長に向けてご支援くださいますよう、よろしくお願いいたします。

連結財務諸表

①総資産
輸入小麦の即時販売方式導入などによるたな卸資産の増加がありましたが、有形固定資産の減少、株式市場の低迷などによる投資有価証券の減少、有利子負債の返済などによる現金及び預金の減少を主な要因として、前期末に比べ1,685百万円減少しております。

②負債
有利子負債の減少などがありましたが、主に買掛債務が増加したことにより、前期末に比べ1,227百万円増加しております。

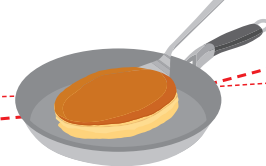
③純資産
当期中に自己株式の消却を実施しており、資本剰余金が4,296百万円減少しております。自己株式では新規買取による増加と消却による減少が相殺され、2,841百万円の減少となっております。その他に、当期純利益の計上による増加がありましたが、期末配当金の支払による減少、その他有価証券評価差額金の期末時価評価洗い替えによる減少などにより、前期末に比べ2,912百万円減少しております。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期末 平成23年3月31日現在	前期末 平成22年3月31日現在
資産の部		
流動資産	58,016	55,454
固定資産	82,629	86,876
有形固定資産	67,508	69,866
無形固定資産	1,217	801
投資その他の資産	13,903	16,208
① 資産合計	140,645	142,331
負債の部		
流動負債	62,794	56,361
固定負債	27,573	32,779
② 負債合計	90,367	89,140
純資産の部		
株主資本	46,564	48,797
資本金	12,778	12,778
資本剰余金	4,710	9,007
利益剰余金	29,100	29,877
自己株式	△ 23	△ 2,865
その他の包括利益累計額	1,166	1,964
その他有価証券評価差額金	1,090	1,919
繰延ヘッジ損益	76	45
少数株主持分	2,546	2,428
③ 純資産合計	50,277	53,190
負債及び純資産合計	140,645	142,331

(百万円未満は切捨表示しております。)



連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで	前期 平成21年4月 1日から 平成22年3月31日まで
売上高	213,709	209,381
売上原価	177,500	172,030
売上総利益	36,208	37,351
販売費及び一般管理費	30,987	28,740
営業利益	5,221	8,610
営業外収益	1,181	1,119
営業外費用	646	1,424
経常利益	5,755	8,305
特別利益	61	247
特別損失	3,541	1,401
税金等調整前当期純利益	2,275	7,152
法人税、住民税及び事業税	1,717	3,303
法人税等調整額	△ 19	159
少数株主損益調整前当期純利益	577	—
少数株主利益	162	135
当期純利益	415	3,553

(百万円未満は切捨表示しております。)

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当期 平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで	前期 平成21年4月 1日から 平成22年3月31日まで
4 営業活動によるキャッシュ・フロー	8,509	19,667
5 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,291	△ 7,364
6 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,572	△ 13,176
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,354	△ 872
現金及び現金同等物の期首残高	4,224	5,097
現金及び現金同等物の期末残高	2,870	4,224

(百万円未満は切捨表示しております。)

4 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益2,275百万円、減価償却費7,478百万円などによる資金の増加がありました。法人税等の支払などを行った結果、合計では8,509百万円の収入となりました。

5 投資活動によるキャッシュ・フロー

主に有形固定資産の取得で4,991百万円の資金を使用した結果、合計では5,291百万円の支出となりました。

6 財務活動によるキャッシュ・フロー

フリー・キャッシュ・フロー 3,218百万円を原資として、借入金の返済、自己株式の取得による支出1,455百万円、配当金1,207百万円の支払などを行った結果、4,572百万円の支出となりました。

連結株主資本等変動計算書 (当期 平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	その他の包括利益 累計額合計		
平成22年3月31日残高	12,778	9,007	29,877	△ 2,865	48,797	1,919	45	1,964	2,428	53,190
当連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△ 1,192		△ 1,192			—		△ 1,192
当期純利益			415		415			—		415
自己株式の取得				△ 1,455	△ 1,455			—		△ 1,455
自己株式の消却		△ 4,296		4,296	—			—		—
株主資本以外の項目の 当連結会計年度中の変動額（純額）					—	△ 828	30	△ 798	118	△ 679
当連結会計年度中の変動額合計	—	△ 4,296	△ 777	2,841	△ 2,232	△ 828	30	△ 798	118	△ 2,912
平成23年3月31日残高	12,778	4,710	29,100	△ 23	46,564	1,090	76	1,166	2,546	50,277

(百万円未満は切捨表示しております。)

会社情報 (平成23年3月31日現在)

会社データ

■ 会社概要

設 立 昭和11年2月18日
資 本 金 12,778,008,177円
従 業 員 数 1,083名
本社所在地 〒101-8521
東京都千代田区内神田2-2-1 鎌倉河岸ビル

■ 事業所

大阪支店／名古屋支店／仙台支店／札幌支店
福岡支店／広島支店／関東信越支店／千葉出張所
南九州出張所／鹿島工場／神戸工場／船橋工場
総合研究所／食品開発センター

■ 役員 (平成23年6月29日現在)

● 取締役および監査役

取締役社長 (代表取締役) 岡 田 茂
取締役副社長 (代表取締役) 金 澤 多計志
専 務 取 締 役 佐久間 潤
常 務 取 締 役 小 川 敏 郎
常 務 取 締 役 四 宮 哲 爾
監 査 役 (常 勤) 小 島 幸 弘
監 査 役 (常 勤) 石 黒 達 郎
監 査 役 吉 倉 健 一
監 査 役 今 井 信 義

● 執行役員

常 務 執 行 役 員 村 井 眞 哉
常 務 執 行 役 員 笠 井 敏 雄
執 行 役 員 中 井 千 晃
執 行 役 員 中 村 圭 介
執 行 役 員 土 屋 信 人
執 行 役 員 檜 前 慶 一
執 行 役 員 新 妻 一 彦
執 行 役 員 田 村 英 雄
執 行 役 員 玉 井 章
執 行 役 員 齋 藤 規 生
執 行 役 員 太 田 隆 行

株式情報

■ 株式の状況

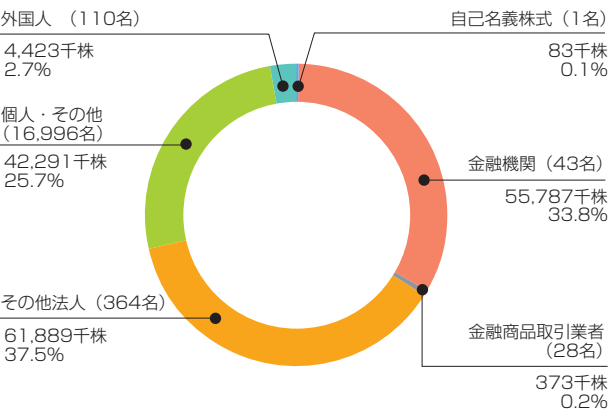
発行可能株式総数 720,000,000株
発行済株式総数 164,849,898株
株 主 数 17,542名

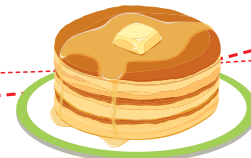
■ 大株主 (上位10名)

株 主 名	所有株数	出資比率
伊藤忠商事株式会社	16,000,000株	9.7%
日本興亜損害保険株式会社	8,545,501	5.2
株式会社千葉銀行	8,000,528	4.9
三井物産株式会社	7,700,000	4.7
ユアサ・フナシヨク株式会社	6,165,600	3.7
農林中央金庫	5,515,396	3.3
東京海上日動火災保険株式会社	5,169,328	3.1
双日株式会社	5,000,000	3.0
株式会社カーギルジャパン	4,701,000	2.9
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託 みずほコーポレート銀行口再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	4,500,000	2.7

(注) 出資比率については、自己株式を控除して算出しております。

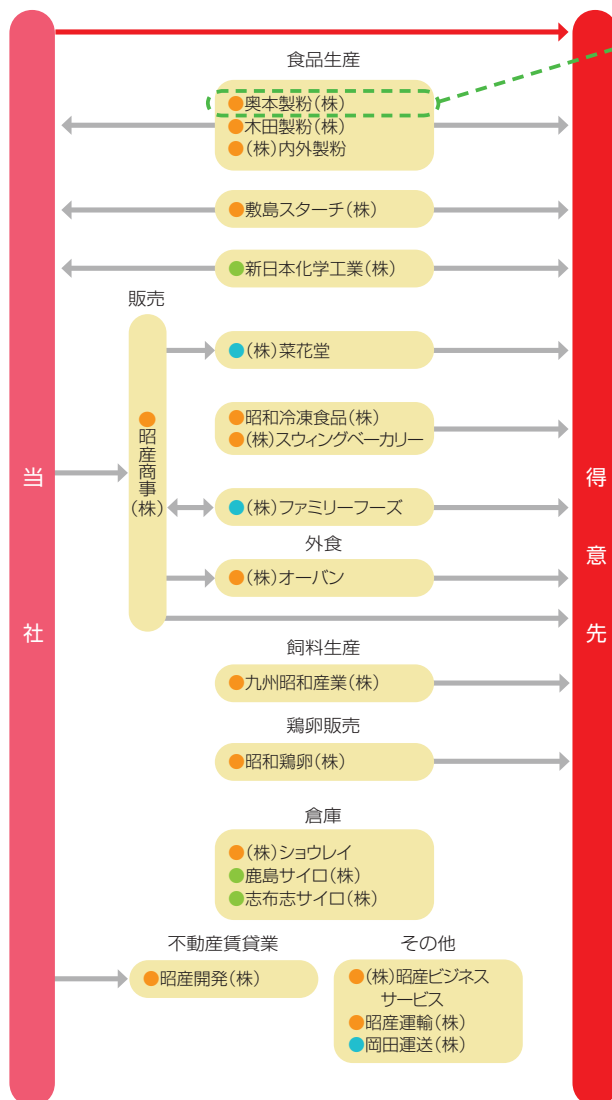
■ 所有者別株式分布状況





グループ事業

■ グループの概要



FOCUS!

● ● ● ● ● グループ会社のご紹介 ● ● ● ● ●

奥本製粉株式会社

平成 21 年に昭和産業グループに加わった奥本製粉株式会社は、昭和 24 年の設立以来、関西を基盤として小麦粉、プレミックス、パスタなどの製造・販売に長年の実績を持つ製粉メーカーです。しっとり・もちもちした湯種パンを簡単に作ることができる「い〜湯だね! シリーズ」を始め、独自の技術を活かした業務用・家庭用の数々の商品を取り揃えています。

昭和産業とは、生産、営業、開発、物流などすべての分野で協力し、連携を強め、成果を挙げつつあります。今後もそれぞれの強みや立地を活かしながら、グループシナジーを最大限に発揮してまいります。



奥本製粉本社(大阪府貝塚市)



リスクマネジメント

昭和産業グループでは、リスクマネジメント基本方針を定め、あらゆるリスクに計画的、組織的に対処していくことで、社会から信頼の得られる企業グループとして、持続的に発展していくことを目指しております。

〔リスクマネジメント基本方針〕

- リスクを定期的に分析し、対応施策を適切に実施します。
- 重大なリスクに対しては、対応組織を定め、その予防施策を計画的に実施します。
- 危機発生の際は、対応組織を編成し、人命救助、環境保護を最優先に行います。

大地震などの大規模災害に対しては、緊急時の体制や防災グッズ、耐震補強工事などの整備を行ってきました。東日本大震災においては、そうしたリスク対策が有効に機能したことにより、震災被害自体を抑えるとともに、操業や営業活動を通常の状態へと早期に復旧することができました。



工場災害訓練



本社ビル耐震補強工事
(平成20年実施)



災害備蓄・災害対策装備

東日本大震災の被災地に対する支援

東日本大震災の被災地を支援するために、1口500円の社員募金制度「ワンコイン募金」を実施しました。集まった義援金に当社およびグループ会社からの義援金を加え、関係機関を通じて被災地支援に合計1,200万円を寄付いたしました。

株主優待制度のお知らせ

当社では株主様へのご優待サービスとして、年一回、自社製品をお送りしております。

株主の皆様に対して総合食品メーカーである当社の新製品および主力製品の魅力をお伝えるため、主に既存のギフト製品を贈呈していた従来の運用を変更し、バラエティ豊かな家庭用製品の詰め合わせセットをお届けいたします。

ご家庭の食卓で「日本をおいしくするSHOWA」の味をお楽しみください。



(5,000円相当の詰め合わせセット例)

5,000株以上保有の株主様

当社家庭用製品
5,000円相当の詰め合わせセットを贈呈

1,000株以上5,000株未満保有の株主様

当社家庭用製品
2,000円相当の詰め合わせセットを贈呈



(2,000円相当の詰め合わせセット例)

- 対象は毎年基準日（3月31日）時点で、1,000株以上保有の株主様に対し、自社製品を上記基準により贈呈いたします。
- お届けは毎年7月上旬となりますが、東日本大震災の影響により、本年は例年より2ヶ月程度遅れてのお届けとなります。

*写真は詰め合わせセットの例になります。

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 毎年6月中

公告の方法 電子公告により行う

公告掲載URL

<http://www.showa-sangyo.co.jp>

(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)

基準日 3月31日

株主名簿管理人
特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番地11号
0120-232-711(通話料無料)

1単元の株式数 1,000株

シェフのおすすめレシピ



SHOWAから商品を使った簡単レシピのご紹介です。
「ひまわりネット<http://www.himawarinet.com>」では、
レシピの紹介や各種キャンペーン情報など盛りだくさんで
お届けいたしております。
みなさんは是非一度アクセスしてみてください。

「昭和ホットケーキミックス」で

● チョコ・トライフル ●

● 材料 ●

6～8人分

「昭和ホットケーキミックス」	100g
牛乳	1/2カップ
バナナ	2本
昭和オレインリッチ	適量
A 昭和オリゴタイム	大さじ2
湯	大さじ1
ラム酒	大さじ1
ドライランベリー(あらく刻む)	30g
製菓用チョコレート(刻む)	60g
B 卵黄	1個
牛乳	大さじ2/3
C 卵白	1個分
グラニュー糖	大さじ1弱
ミントの葉	適量

シェフのおすすめ言葉▶▶

イギリスのデザート、トライフル。由緒あるレストランでも必ずメニューに入っているような伝統的なものですが、実はこの名前「ありあわせ」「とるに足りないもの」という意味。気楽に作ってみましょう!



◀◀ シェフのコツ

バナナをサッと焼くことで、バナナの甘みをさらに引き出しました。夏に作るなら、角切りにしただけのバナナでもあっさりしていて素敵ですね。

◀◀ シェフの一工夫

デザートも、グラススイーツ仕立てにすれば、プレゼントとして渡すことができます。ほかのデザートでもお試しください。

● 作り方 ●

- ① 「昭和ホットケーキミックス」に牛乳を加えてとき混ぜ、「オレインリッチ」を薄く敷いて熱したフライパンでホットケーキを2枚焼き、3cm角に切ってボールに入れます。
- ② バナナは5mm幅に輪切りにし、「オレインリッチ」少量を熱したフライパンで両面をさっと焼き、①に加えます。Aを混ぜた液とドライランベリー(少量は飾り用にとりおきます)も加えて混ぜます。
- ③ チョコレートは耐熱容器に入れ、ラップをして電子レンジで約2分加熱して混ぜ、すぐにBを混ぜたものを加えて泡立て器で混ぜます。
- ④ 別のボールでCをかたく泡立て、③に加えて混ぜ合わせます。
- ⑤ 器に②と④を交互に重ね入れ、ドライランベリーやミントの葉を飾ります。

昭和産業株式会社

〒101-8521 東京都千代田区内神田二丁目2番1号 鎌倉河岸ビル

TEL.03 (3257) 2011 FAX.03 (3257) 2180 <http://www.showa-sangyo.co.jp>